

平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」狛江市の結果

「全国学力・学習状況調査」が平成 27 年 4 月 21 日（火）に実施され、その結果が文部科学省より各小・中学校へ送付されるとともに、教育委員会へも報告されました。

「全国学力・学習状況調査」は平成 19～21 年度の 3 年間悉皆で調査されましたが、平成 22 年度から抽出調査に切り替えられました。（平成 23 年度は東日本大震災の影響で中止）しかし、抽出調査に変更されたことにより、「各都道府県の状況についてはおおむね把握できるが、詳細な状況把握及び分析等には生かしくなくなっている」という課題から、平成 25 年度から悉皆調査として実施されています。

平成 27 年度は、国語（A・B）算数・数学（A・B）の他に理科も悉皆で実施されました。

市内の小・中学校の結果の分析についてまとめましたので、御報告いたします。

調査の概要

調査実施日 平成 27 年 4 月 21 日（火）

調査の目的 ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
 ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
 ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

調査対象 国・公・私立学校の小学校第 6 学年，中学校第 3 学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能 など 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査（※）	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査 （例）国語の勉強は好きですか，授業の内容はどの程度分かりますか，一日にテレビを見る時間，読書時間，勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）学力向上や学習の定着に向けた取組，習熟度別少人数指導，教育の情報化，教員研修，家庭・地域との連携の状況 など

時間割

◎ 小学校（児童質問紙は，4 時限目終了後以降に，各学校の状況に応じて実施。）

1 時限目（45 分）	2 時限目（45 分）	3 時限目（45 分）	4 時限目（45 分）	
国語 A（20 分），算数 A（20 分）	国語 B（40 分）	算数 B（40 分）	理科（40 分）	児童質問紙（20 分程度）

◎ 中学校（生徒質問紙は，5 時限目終了後以降に，各学校の状況に応じて実施。）

1 時限目（50 分）	2 時限目（50 分）	3 時限目（50 分）	4 時限目（50 分）	5 時限目（50 分）	
国語 A（45 分）	国語 B（45 分）	数学 A（45 分）	数学 B（45 分）	理科（45 分）	生徒質問紙（20 分程度）

受検者数 【小学校】第 6 学年 546 人 【中学校】第 3 学年 432 人

小 学 校		中 学 校	
<p>国語 A 主として「知識」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「読むこと」では「作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題」では都の平均を 6 ポイント以上上回りました。</p> <p>◆ 「話すこと・聞くこと」の領域で課題が見られ、「話の内容に対する聞き方をくふうすることができるかどうかをみる問題」は、国・都の平均を下回りました。</p>	<p>国語 A 主として「知識」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では「漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの方を見方を想像する問題」では都の平均を 3 ポイント以上上回りました。</p> <p>◆ 「読むこと」の領域で課題が見られ、「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題」や「目的に応じて要旨を捉える問題」は、都・国の平均を下回りました。</p>
<p>国語 B 主として「活用」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「読むこと」で「登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読することができるかどうかをみる」問題は概ね満足できる結果となりました。</p> <p>◆ 「読むこと」で、「目的に応じ、文章と図を関係付けて読むことができるかどうかをみる問題」は、国・都の平均を下回りました。</p>	<p>国語 B 主として「活用」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 全ての領域において、国・都の平均正答率を上回っています。「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題」では、都を 5 ポイント、国を 8 ポイント以上上回りました。</p> <p>◆ 「読むこと」で、「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く問題」に課題が見られました。</p>
<p>算数 A 主として「知識」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「図形」は都・国の平均を上回り、「二等辺三角形を、円の性質と関連付けて捉えることができるかをみる問題」では、都を 7 ポイント、国を 12 ポイント以上上回りました。</p> <p>◆ 「数と計算」では、都の平均を下回っており、「末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができるかをみる問題」に課題が見られました。</p>	<p>数学 A 主として「知識」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 全ての領域において、国・都の平均正答率を上回っており、全体として概ね満足できる結果となりました。</p> <p>◆ 「資料の活用」の「与えられた資料から中央値を求める問題」では都、国を 8 ポイント上回りました。</p> <p>◆ 「関数」の「二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されていることを理解しているかをみる問題」では、国・都の平均正答率を下回り課題が見られました。</p>
<p>算数 B 主として「活用」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「数と計算」で、「日常生活の事象において、見積りの結果から目的に応じた判断をすることができるかをみる問題」では、国・都の平均を上回りました。</p> <p>◆ どの領域でも都の平均を下回りました。今後重点的に改善を図ってまいります。</p>	<p>数学 B 主として「活用」</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ ほとんどの領域で都の、全ての領域で国の平均正答率を上回っています。「数と式」の「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する問題」などで都・国の平均を上回っています。</p> <p>◆ 「図形」において、「平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を正確に捉えられるかをみる問題」では都・国の平均を下回り、課題が見られました。</p>
<p>理科</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「生命」では、「観察・実験のデータを分析し、証拠に基づいた結論を導き出せるかをみる問題」で概ね満足できる結果となりました。</p> <p>◆ 「生命」では「メダカの雌雄を見分ける方法を理解しているかをみる問題」で都・国の平均正答率を大きく下回りました。</p>	<p>理科</p> <p>■ 狛江市 ■ 東京都 ■ 全国</p>	<p>◇ 「地学的領域」を除く全ての分野で都・国の平均正答率を上回っています。「生物的領域」の「見いだした問題を基に、適切な課題を設定することができるかをみる問題」で都や国の平均を 5 ポイント程度上回っています。</p> <p>◆ 「地学的領域」については正答率が全体として低く、特に「他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明する問題」に課題が見られました。</p>